

2019. 3. 23 森林立地学会現地研究会

『下越地方の海岸林と赤色土』

2019年度の現地研究会は新潟県で開催しました。本稿では写真を中心にをご紹介します。午前中は新潟市の中心街に近い海岸林を見学し、海岸林の遷移と鳥類、気候変動との関わりについて学びました。その後、胎内市の海岸に移動してクロマツ・広葉樹を植栽した客土試験地を見学しました。午後は新発田市の市街地に近い五十公野公園内で赤色土の土壌断面を観察しました。なお、研究会の内容の詳細については森林立地 61 号 1 巻に記載された参加者の藤田早紀氏による「2019年度森林立地学会現地研究会の記録」も合わせてご覧ください (*1)。

当日、朝 8 時に新潟駅に集合した 45 名（うち学生・PD7 名）の参加者は、バスに乗車して新潟市西海岸公園「野鳥の森」へ向かいました。



野鳥の森では新潟大学の中田誠教授より現地で行われてきた活動や研究の説明をしていただきました。また、長年野鳥の森でボランティアを続けてきた伊藤泰夫氏にバンディングの説明・実演をしていただきました。その後、バスで次の見学地である胎内市の中村浜へ向かいましたが、車内では国際農林水産業研究センターの今矢明宏氏、森林総合研究所の金子真司氏、ブラタモリへの出演経験もある農業環境変動研究センターの前島勇治氏から、午後に観察する赤色土の特徴や生成要因について説明をしていただきました。

*1, https://www.jstage.jst.go.jp/article/jife/61/1/61_43/article-char/ja



中村浜では、新潟県森林研究所の武田宏氏より、松くい虫被害を受けた海岸防災林の復旧に関する解説がありました。その後は、新発田市の五十公野公園へ移動して昼食となりました。



昼食時には、五十公野公園に隣接するサンワークしばたの会議室において、森林立地学会の総会が開かれました。総会では各審議事項の討議の他、2019年度の論文賞の発表も行われました。

午後は、参加者が2班に分かれ、公園内に準備された赤色土壌断面の観察とフィールドポスターセッションが行われました。土壌断面観察の際は、今矢氏に解説をお願いしました。迫力のある赤色土壌断面を前にした詳細な説明に参加者からの質問が絶えませんでした。また、フィールドポスターセッションを同時に開催し、新潟県内で精力的に研究を行ってきたアジア大気汚染研究センターの佐瀬裕之氏、新潟県環境衛生研究所の小柳信宏氏、新潟大学の田中亮輔氏にポスター発表をしていただきました。調査地に近い場所で研究内容を説明していただくことで、大変臨場感のあるセッションとなりました。



以上、一日という短い時間ではありましたが、参加者の皆様のおかげで、充実した現地研究会にすることができました。現地でのコーディネートに尽力いただきました新潟大学の中田教授、アジア大気汚染研究センター佐瀬氏、新潟県森林研究所の武田氏をはじめ、ご講演・ご説明いただきました方々に改めて感謝申し上げます。



(文責 事業幹事 山下尚之)